



福岡銀行

挑戦によって躍進し続ける
アジ・サバ生食加工品の
リーディングカンパニー。

株式会社ジャパンシーフーズ

代表取締役会長

井上 幸一 氏

代表取締役社長

井上 陽一 氏

取引店／福岡銀行 井尻支店

会社ホームページは
こちらからどうぞ!



公式オンラインショップ
熊本舗は
こちらからどうぞ!



■会社概要

設立:1987年／所在地:福岡市南区／資本金:
1億円／従業員:210名／事業内容:水産加工業
／事業所:本社(福岡市南区)、箱崎工場・福岡
営業所・食品研究室(福岡市東区)、対馬工場
(長崎県対馬市)、営業所(東京都中央区、名古屋
市熱田区、大阪市福島区、仙台市宮城野区、
広島市西区)



株式会社 ジャパンシコズ

株式会社 ジャパンシコズ
箱崎工場

箱崎工場正門前(左から井上幸一会長、井上陽一社長、五島頭取)

アジの加工を機械化して 業界に名を知らしめる

現会長である父の幸一が当社を興したのは1987年のこと。祖父が営む複数の鮮魚小売店の一店舗から独立起業しました。当時、まるの魚（鮮魚）より切り身や刺身に加工されたものが売れるようになった頃で、バックヤードが人手不足になる事に目を付けて「鮮魚加工の工場を立ち上げれば、需要の高まりに対応できる」と考えての起業でした。

業界で日本一になるべく社名はジャパンスーパーズとし、当初はあらゆる魚種を取り扱っていましたが、手間がかかるわりに儲けが出ない結果に。その時出会ったのが中小企業向けの経営哲学であるランチエスター経営学です。ランチエスター経営株式会社の竹田陽一氏は「特定の分野でナンバーワンになれば、大きく成功できる」と説いており、その言葉を信じて対象とする魚種を絞りこんで、ニッチな市場でナンバーワンを取りに行く戦略へ軌道修正しました。近郊の海で豊富に獲れるアジ一本に取り扱いを絞って、アジの生食（刺身）加工に切り替えました。アジは水揚げ後の劣化が早いいため、他社が簡単に参入してこないであろうという算段もあったそうです。

とはいえ、生魚加工の工程の機械化は、繊細な微調整が欠かせないほど難しく、商品の安定的な生産にいたるまでに数年の歳月を要したため、試行錯誤の日々のなか、大変苦労しました。ようやく各工程の機械化に成功すると、製造効率、利益率ともに飛躍的に向上。また、アジに特化したことで、「ニッチな市場に注目して開拓したユニークな会社」として知名度も上がり、現在では業界で「アジといえばジャパンスーパーズ」と言われるまでになっています。

水産加工業の会社であるとともに 人気商品を生み出す食品メーカー

当社の歴史の中でも、オリジナル商品の開発が会社の成長につながっています。新商品の開発を模索した会長が、博多の食文化として知られる「ごまさば」をヒントに考案した商品「胡麻あじタタキ」は大ヒットし、売上の面で躍進に貢献しました。この商品の特色は、たれといりごまをセットにした点で、生魚のアジをしようゆではなく、たれで食べてもらうという意味で、新たな食文化の発信にもつながったと考えています。現在は、アジのほかにサバの加工も手がけていますが、今後は、生魚を食べる習慣のない海外市場に対しても、外国の消費者にとって目新しい



5



3 1



6



4 2





井上幸一会長



井上陽一社長

商品を打ち出していくことで、事業を拡大していきたいと考えています。

また、当社の主要顧客はスーパーなどの量販店であり、「胡麻あじタタキ」は、BtoB向けの商品として開発したものです。ネット通販が消費生活の中心になりつつある現在、消費者に直接訴えるBtoC向け商品にも力を注いでいます。こちらは毎年各コンテストに出品して、そのたびに受賞するという、ありがたい状況が続いています。なかでも、「うまかあじたき」は、全国商工会連合会が主催する第59回全国大会むらおこし特産品コンテストにおいて最高賞となる経済産業大臣賞を受賞しました。

また、品質においては「ISO 22000」を取得。環境面においても「ISO 14001」を取得しており、加工商品の製造過程で出る残渣を養殖魚の餌に回して廃棄物を有効活用するなどSDGsにも取り組んでいます。

**設備投資と技術改革で
変革の年を目指す**

おかげさまで成長を遂げてきた当社ですが、それでもまだ解決すべき大きな課題はあります。アジは劣化が早いいため、魚を毎日仕入れ、その日のうちに北は北海道から、南は沖縄まで出荷するという体制で、これまで社業を続けてきました。劣化しやすい青魚を工場加工商品（刺身）にするのは、業界では画期的なことですが、それだけ困難を強いられる事業でもあります。生魚から商品を製造するにあたって、常に不漁や時化とも戦わねばならないからです。更に、地球温暖化による海洋環境の変化、漁業の現場で進んでいる「働き方改革」といった要因もあり、当社は、ビジネススタイルを変えていかねばならない岐路に立っている状況です。

そういった意味で私は、今年を当社にとって大きな挑戦の年と位置付けています。生魚が手に取らない時でも工場の稼働が続けられるように、



11 9



7



10



8

1.対談風景／2.工場内を見学／3.フィーレ加工の見学／4.骨抜き作業の見学／5.丁寧な手作業で品質チェックを行っている／6.高周波解凍機は1時間で1トンの魚を解凍できる／7.アニサキス殺虫装置の説明／8.ブラックライトでアニサキスを発見／9.鱈本舗 極 純～あや～の盛り付けイメージ(さば梅煮、さば和風とまと煮、極みしめさば)／10.一番人気の茶漬けセット潮～うしお～(6個入)／11.企業メッセージ



前列左2人目から井上幸一会長、井上陽一社長、五島頭取、長谷川支店長(福岡銀行、現・事務管理部副部長)

冷凍原料を使った商品の生産に取り組み始めたところだ。

昨年末に「高周波解凍機」という設備を導入しましたが、原理的には「巨大な電子レンジ」のようなものです。解凍は、肉においてもそうですが、魚にとって、商品の味を左右する重要な工程といえます。導入した設備は解凍にかかる時間を大幅に短縮し、商品の品質を飛躍的に向上させる性能を備えているため、これを活用して冷凍原料商品を大量に市場に供給していく体制を本格化させるつもりです。取り組みがうまくいけば、原料不足に左右されない、強固な利益基盤を構築できるものと考えています。

更に、継続的でチャレンジングな技術改革という点では、生魚のなかにひそむアニサキという寄生虫を見つけるために、紫外線を当てながらおこなう目視検査方法を父が発見し、当社が日本で初めて導入しました。そして、この工程の改良に向け、近年では熊本大学産業ナノマテリアル研究所との共同研究で、電気を用いたアニサキス殺虫装置の開発にも取り組んでいます。

身に付けたシステム開発力で 職場環境の改善に貢献

それから、当社が正面から取り組まねばなら

ない、もう一つのテーマといえるのが、人材戦略です。当社に限らず、製造業全般で人手不足が深刻化しつつあります。立ち仕事が多い、朝が早いといった製造業の職場が人気を得にくい状況にあるのは周知のとおりです。

それに加えて、わが国の人口減少など人手不足に拍車をかける要因があるため、当社でも海外からの実習生の受け入れをおこなっています。しかし、根本的な解決に向かうには、地道な環境改善と時間をかけた人材教育が軸であると、私は考えます。特定の個人に負担がかかるような仕事の仕組みや環境を一つずつ変えていくために、従業員とのコミュニケーションを積極的に図って、できるかぎり個々の状況と心情を汲み取る一方で、忙しい時にもお互いに助け合いながら仕事を進めようとする雰囲気醸成に努めています。

職場環境の改善においては、この業界ではまだ多く取り残されているアナログな作業の効率化にも注力しています。たとえば、担当者が商品ごとに手入力でおこなっていた商品ラベルの作成作業も、独自のシステムを構築して自動化しました。私は当社に入社する前、システムエンジニアとして5年の間、IT系企業で働いていた経緯があります。その経験があったから自社用のシステムを開発できたわけですが、業務時間を終えてから

の独力での作業でしたので、システム完成までに3年も費やすことになりました。それでも当初、専門業者に見積もりを依頼したら「5,000万円はかかる」と言われたので、事業コストの面では経験が役に立ったのかもしれない。

長崎県対馬市に国際貿易港を開設する 取り組みを意欲的に推進

当社は2013年から対馬市に工場を設けていますが、工場のある上対馬町は、立地的に世界のハブ港である釜山港まで約50kmしか離れていません。そして、当社が原料としているアジとサバは釜山港でも大量に水揚げされています。そこで当社では、釜山のアジとサバを対馬工場で加工できるように、各方面に働きかけているところです。

上対馬町に貿易港を開設するために、株式会社福岡魚市場と協力して対馬市に対して開港の要望書を提出し、市側も前向きに取り組む姿勢を見せてくださっています。実現すれば、人口減少の著しい対馬市の将来にも、きっと明るい光がさす結果につながるはずです。

この展開を足がかりに、5年後は年商100億円、10年後までにアメリカや中国に営業拠点を設置し、海外進出を本格化させて事業の更なる発展を目指してまいります。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久

当社は、アジ・サバの生食加工品分野における先駆者として、知る人ぞ知るニッチトップ企業です。また、冷凍原料を用いた商品開発やアニサキス検知装置の開発など、継続的な設備投資と技術革新によって、当社のビジネスは進化を続けています。こうした先進的な取り組みの積み重ねが、当社の“今”をつくったと言っても過言ではないでしょう。チャレンジの大切さを再認識しました。

また、製造過程で出る廃棄物の有効活用、職場環境の改善をはじめとする「人への投資」など、社会環境の変化にもいち早く対応されています。

創業された幸一会長の思いを引き継ぎながら、陽一社長の挑戦は続きます。当社の“これから”に期待が高まります。





 熊本銀行

地域の人々に寄り添って
必要とされる福祉サービスを
幅広く展開。

社会福祉法人 権現福祉会

理事長

松本 善孝氏

取引店／熊本銀行 八代支店

■法人概要

設立:1979年／所在地:熊本県八代市／従業員:
400名／事業内容:【児童福祉事業】保育園、
児童クラブ【高齢者事業】介護老人保健施設、
ケアハウス、グループホーム、訪問看護、小規模
多機能、居宅、包括支援事業【障がい児・者サー
ビス事業】児童発達支援、放課後等デイ、重症
心身障がい児・者通所支援事業・生活介護事業

ホームページは
こちらからどうぞ!





ケアハウス借老苑前(左から松本理事長、野村会長)

「世のため、人のため」 の理念を掲げてスタート

社会福祉法人権現福祉会設立の発端は、地域住民の皆さんが発した「地域に保育園を増やしてほしい」という声でした。当時、地域には保育所が少なく、入園を希望する、いわゆる待機児童が多く、市議会議員をしていた私の父（初代理事長）へ切実な要望が寄せられたのです。父は手を尽くして事業者を募ろうとしましたが手を挙げる者がなく、「それならば」と、自ら社会福祉法人を興して保育園設立に踏み出しました。

それまで父の議員活動を手伝っていた私も、法人設立時からその運営に携わりました。その後、保育所に重度の障がいをもった子が入園してきたのをきっかけに、障がい児・者福祉事業にも乗り出すことになり、「ご家族の困りごとを間近で見ると、その子の成長にあわせて、障がい児・者を積極的に受け入れる児童クラブ、児童デイサービス、生活介護事業所などの事業を順次展開する運びとなりました。因みに「権現福祉会」の名は地域の権現神社からとったもので、「権現様」に見守られて「子どもたちが元気にすくすくと育ってほしい」という願いが込められています。

当法人は、設立時から掲げている理念である

「世のため、人のため」を形にし、地域で必要とされるもの、人々が困って発した声に対応していくなかで、事業を展開し地域に必要とされる存在につながってきました。

事業収益を地域に還元するのが 社会福祉法人の使命

当法人の柱となる高齢者サービス事業は、少子高齢化が急速に進むようになった1991年に介護老人保健施設を開設しました。その後、2000年に介護保険制度がスタートしたのです。

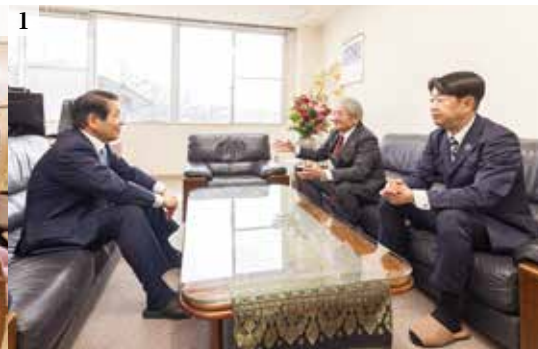
当時、介護保険サービスがスタートしても、八代の高齢化率の高い市内周辺部では採算面からどここの事業所も訪問看護が実施できない状況にありました。往復に費やす時間を考えるとサービス提供の要望があっても正直なところ採算はとれません。しかし、当法人では地域に必要とされている以上社会福祉法人として積極的にニーズに応じていくべきだと考え在宅での生活を支え、頼りにされる存在となります。また、自宅で過ごしたいと願うのは、高齢者だけでなく乳児など含む子どもたち、保護者も同じで人工呼吸器など装着している医療



5



3 1



6



4 2





松本理事長

依存度の高い子ども達も在宅で過ごせるように訪問看護で先駆的に取り組んできました。福祉事業を営んでいると、必要な制度がない為に市や県に直談判することもありますが、費用持ち出しの自主的な事業としてスタートさせた後に制度として認められたケースもあります。いくつかの障壁を乗り越えてきましたが、私たち社会福祉法人の優遇制度を利用することで、地域に根差したサービスを実現することができてきました。既存の制度では、対応が難しい地域社会のニーズにしっかり応えていくことが社会福祉法人の役割だと感じています。また、当法人は現在24か所の事業所を構えており、これらを有機的に連携させることで多角的な事業展開によるスケールメリットとシナジー効果を生み出せます。社会福祉法人として、地域に感謝し様々なことで地域に還元することが存在意義であり使命だと考えています。

震災時に避難所を複数開設し 大勢の被災者を受け入れ

当法人の役職員は常日頃より経営理念である「世のため、人のため」を念頭に業務にあたっています。そのような中、2016年4月に熊本県は大きな地震に見舞われました。

以前から私たちは、災害時に高齢者や障がい者などの「災害時要援護者」と呼ばれる方たちが安心して避難できる「福祉避難所」の必要性を感じており、2008年、八代市との間で、施設の一部を被災者の避難所として活用してもらうための「避難協定」を締結しました。

熊本地震が図らずも協定締結後初の事例となつてしまいましたが、重度障がい者など災害時要援護者を含む地域の人達、のべ約1,800人の避難者を4施設で受け入れました。受け入れ期間はおよそ2か月におよび、その間は避難所で介護や食事提供を続けました。

また、2011年に発生した東日本大震災の際には、全国社会福祉法人経営者協会からの介護職員応援要請に応じて、当法人の希望する職員を数年に亘り派遣しました。

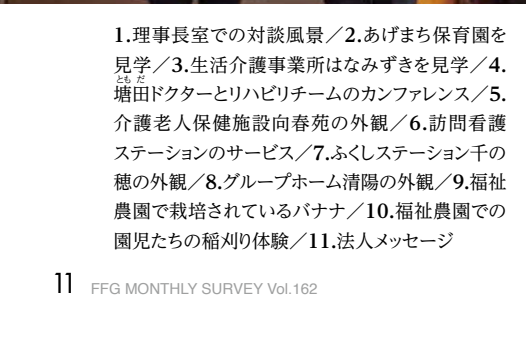
最初の2年間は宮城県、その後3年間は福島の福祉施設に赴いて介護支援に当たりました。



11 9



7



8

10

- 1.理事長室での対談風景
- 2.あげまち保育園を見学
- 3.生活介護事業所はなみずきを見学
- 4.塘田ドクタートリハピリチームのカンファレンス
- 5.介護老人保健施設向春苑の外観
- 6.訪問看護ステーションのサービス
- 7.ふくしステーション千の穂の外観
- 8.グループホーム清陽の外観
- 9.福祉農園で栽培されているバナナ
- 10.福祉農園での園児たちの稲刈り体験
- 11.法人メッセージ



左から國田業務執行理事、元嶋理事、松本卓士課長、松本善孝理事長、野村会長、平野支店長（熊本銀行、現・健軍支店長）、角業務執行理事

した。熊本地震の際には、宮城・福島の社会福祉法人から職員派遣のご提案をいただき応援物資もたくさん届きました。そうした交流を通じて、全国の社会福祉法人とつながっている実感を得、心強さを感じた次第です。

高い定着率の理由は 生き生きと働ける職場環境

少子化の影響で、近年はあらゆる業界で人手不足が問題となっており、とくに福祉分野では働き手の不足が深刻化しています。幸いなことに、当法人では、通年実施している採用では一定の応募があり、また離職率が比較的低く（全国平均の3分の1程度）、人材を確保できています。職員には、権現福祉会の理念に共感して入社したという人が多く、おそらく地域社会に貢献できる仕事に、意欲とやりがいを感じてくれているのではないのでしょうか。

それに加えて、働きやすさを追求する、当法人の職場環境に対する姿勢も功を奏しているのかもしれない。例えば、職員の男女比では女性が7割強を占めていますが、産休・育休制度の充実に努めています。産休後の復帰でも、時短勤務制度を利用して正職員のまま一定期間

勤務時間を短縮し、落ち着いた時点で8時間勤務に戻るといった具合に、ワークライフバランスに
応じて柔軟に働ける勤務制度を整えています。
毎年10名程度が産休を取得しますが、100%
職場復帰を果たしています。

福利厚生面でも、ほぼ事業所負担での旅行、
食事会などを実施。内容や行き先を職員が決
め、多くの選択肢から選べるようにしているた
め、それぞれの希望や都合に合わせて楽しんで
もらえます。例えば、台湾旅行などによるリフ
レッシュは、職員のモチベーション維持・向上に大
いに役立つようです。

全国で初めて公式に 入所時の契約書を電子化 SDGsにも取り組み

福祉分野は、とくに現場においてDXの導入
が遅れがちな傾向にあると思います。

しかし、社会における人手不足の問題がま
ます加速していくなかで、私たちも「業務の効
率化」に無関心ではられません。その一環と
して、現在取り組んでいるのが、施設への入居時
に必要な契約書を電子化する試みです。この業
務を効率化できれば、職員の書類作成にかかる

業務負担は軽減されますし、遠隔地ともやりと
りできる仕組みから、施設に足を運んでいた
かなくても契約ができるという点で入居者のご
家族へのメリットも大きいと考えます。

市や県も絡む内容のため、公的な取り組みと
しては全国初とのことですが、なにしろ初めて
の取り組みゆえ、相談に乗っていただいた熊本
銀行さんのデジタル化支援チームにもお力もお
借りしながら、試行段階を経てサービスの実現
を目指しているところです。

その他、施設利用希望者や就職希望者の為
に「福祉体験バスツアー」も新たな取り組みと
して始めています。福祉施設の内部見学や働く
職員の生き生きとした笑顔を見ていただくこ
とで介護現場で働く魅力をより多くの方に知っ
ていただきたいと思い実施しています。

福祉体験バスツアーの中には、芋ほり体験も
企画しています。権現福祉会福祉農園では、米・
サツマイモ・バナナなど栽培して高齢者施設の
入居者様や保育園児に収穫体験やおやつとし
てご賞味いただいているものです。

今後も、当施設の福祉サービスを再認識し
てもらおうと、そこで働くことの魅力をより多
くの人に知ってもらう活動にも注力してまい
ります。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役会長 野村 俊巳

保育園の開設を起点として、介護事業や障がい者福祉事業にも乗り出され、
地元の方々の声に真摯に耳を傾けて、必要とされる福祉サービスに次々と取り
組んでこられました。その多くが「ないものはつくる」という信念のもとに生み
出されたと聞きますので、不屈の精神は我々も見習わなければなりません。

地域に暮らす大勢の人々に健康と福祉を届けようとする活動、さらには、震災
時の避難所開設や近隣河川の環境美化活動などは、社会貢献やSDGsの観点
からも重要で意義深い取り組みといえます。「地域社会にいかに関与できるか」
というテーマに、安心して暮らしていける地域をともに築いてまいりましょう。





十八親和銀行

建築業界のパートナー企業として
資材加工、工法開発、人材供給で
現場を力強くサポート。

株式会社 福栄 ふくえい

代表取締役社長
福崎 國久氏 ふくさきくにひさ

取引店 / 十八親和銀行 島原中央支店

■会社概要

創業:1954年 / 設立:1994年 / 所在地:長崎県島原市
／ 資本金:3,500万円 / 従業員:202名 (2023年1月現在) / 事業内容:木材販売、長期優良住宅支援事業、三次元CADによる設計提案、住宅設備機器販売施工、エクステリア販売施工、アルミサッシ販売施工、国策と補助金のサポート、住宅ローン取扱い、プレカット加工、新建材販売、太陽光発電販売施工、3Dバーチャル体験スタジオ、サイディングプレカット、F.P.P.工法、ほう酸防蟻処理加工 / 事業所:本社 (長崎県島原市)、おうちスタジオ [ショールーム] (長崎県南島原市)、長崎県央営業所 (長崎県大村市)、東福岡営業所 (福岡県朝倉市)、北九州営業所 (福岡県田川郡)、大分営業所 (大分県大分市)、北熊本営業所 (熊本県玉名郡)、熊本中央営業所 (熊本県上益城郡)、宮崎営業所 (宮崎県宮崎市)、鹿児島営業所 (鹿児島県始良市) / 関連組織:プレテック島原協同組合、プレテック福岡株式会社、プレテック熊本株式会社

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





ショールーム「おうちスタジオ」前(左から^{たがひ}田上政喜副社長、^{ふかき}福崎國久社長、^{やまがわ}山川頭取、^{ふかき}福崎樹宝専務)

製材所から出発して 業容を拡大し拠点も増やす

株式会社福栄は、長崎、福岡、熊本、大分を中心に、木材・建材などの建築資材と住宅機器の販売・施工を手がける会社です。住宅の設計、資材の自社加工なども行つて、住宅に関するワンストップの物流サービスを構築し、工務店さまを最良のパートナーとして、お客さまにより良いものを安く提供できるように日々努めています。そのために、私は現場の課題に向き合い、知恵を出し汗をかいて解決策を生み出していくことを何より大切にし、社員一丸となつて取り組んでいます。

当社の創業は1954年で、「合資会社福栄製材所」としてスタートしました。建築業界において実績を積み重ねて社業を拡げつつ、1994年に「株式会社福栄」へと組織変更。2008年には本社を現在の島原市礪石原町くわいしはらまちに移しました。そしてこれまでに、本社のほかに九州各エリアに8営業所、建材の加工を行うための3工場、さらには「おうちスタジオ」と名づけたショールームを開設しています。

会社の成長を売上で表すならば、福栄単体の売上では、2010年から2022年の12年間

で約6倍、グループ売上では、約8.4倍に伸ばすことができました。さらに2022年には売上100億円を突破し、九州でトップクラスの仲間入りを果たすことができました。

100億円突破という目標は、私が入社した39年前、売上が2億円/台であった福栄製材所時代からの長年の夢でした。これもひとえに社員個々の日頃の努力、ならびに地域工務店さま、木材・建材・住設メーカーさま、問屋さまなどのお取引先、金融機関の皆さまのおかげと、心から感謝しております。

当面の目標としては、成長の勢いを緩めることなく2025年までに売上150億円を達成して、九州だけでなく西日本においても存在感を示せる会社を目指していきます。

外壁材を事前加工して 建築現場の課題を解決

当社の強みの一つは、総合住宅資材会社ながら、自社で建築資材の加工工場を有している点にあります。例えば、サイディング(外壁材)の場合、住宅施工の際に現場で大工さんが建物の形状に合わせて細部をカットしながら貼っていくのが一般的ですが、当社では図面どおりにサイ



5



3 1



6



4 2





福崎社長

資材を熟知する強みを活かした 施工の専門チームを結成

ディング材をあらかじめ加工して出荷します。現場での加工作業を工場で済ませてしまおうと、現場で出る粉塵や騒音、残材の処理などの問題をなくせました。通常は約1週間かかる現場での外壁貼り付け作業が3日程度で完了できます。また、工場でのプレカット、つまり事前加工作業は現場と違って天候に左右されません。そのうえ、高度な加工機械を使えるため、迅速で正確、美しいプレカットを施すことが可能で、滑らかな円形など手作業だけでは出せないクオリティを実現できる良さがあります。

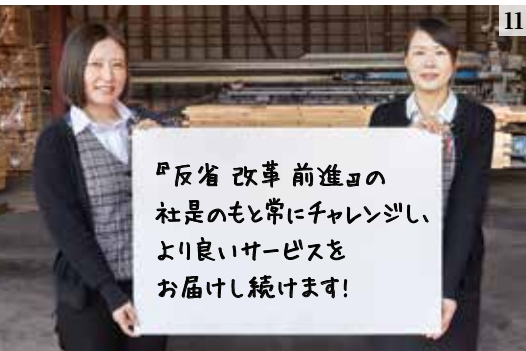
サイディング加工ばかりでなく、プレカット工場では、そのほかにも工期短縮を可能にする

取り組みを行っています。その代表が「FPP（軸組パネルプレカット）工法」です。これは、工場であらかじめサッシ、窓、ドアなどのインテリア建材を組み込んだパネルを製造するやり方で、これを現場に運んで、建物の壁や屋根部分として組み立てます。現場ではパネルを組むだけなので、少人数の大工さんでも作業が可能で、この工法なら40坪程度の住宅が最短1日で鍵を閉めて帰ることができる状態になります。

FPP工法に加えて、「RAP（ライトアングルパネル）工法」も新機軸の工期短縮工法として開発し、パネル、窓回り施工、スターター受金物の3つの特許を取得済です。こちらは簡単に言えば、「ライトアングルパネル」という歪みのない直角で構成されたパネルを用いることで、上棟時の歪みや誤差をなくし、サイディングプレカットには不可欠だった上棟後の現場計測の手間を省ける工法です。FPP工法より低コストで施工できる利点もあります。

前述の2種の工法は建築現場で進む職人不足の問題への対策として有効ですが、当社では、大工さんの高齢化と人手不足の解消にさらに積極的に取り組むべく、工事部隊「フレイミングチーム」を立ち上げました。

資材の供給やプレカット加工だけでなく施工



『反省 改革 前進』の
社是のもと常にチャレンジし、
より良いサービス
をお届けし続けます!



- 1.対談風景
- 2.工場内を見学
- 3.データ制御で正確なプレカットを実現
- 4.断面は手作業だけでは出せないクオリティ
- 5.整然とライン化されたプレカット工程を臨む
- 6.おうちスタジオでVRを体感する山川頭取
- 7.VRは最大4名まで同時に体感可能
- 8.VRで気になった製品をリアルタイムで確認できる
- 9.県内トップクラスの品揃えを誇るショールーム
- 10.設計図面の3Dデータ化技術を見学
- 11.企業メッセージ





最前列左5人目から福崎社長、山川頭取、松本支店長(十八親和銀行、前・島原中央支店長)

まで担当することで、建築資材のことを知り尽くした当社の強みを存分に発揮できるものと考えています。施工まで一貫して当社にお任せいただければ、建築会社さまは工程管理や職人さんの手配など手間のかかる作業を省けますから、建築会社さまが進めたい業務の合理化・省力化、工期短縮に貢献できます。当社の施工チームは、土台敷きから上棟、サイディング施工まで、画期的な工法を駆使して業界最高レベルのスピードで一気に工事を完了させる精鋭部隊といえるでしょう。

工事部隊の技能養成については、正社員だからできる教育を徹底的に行っており、現場での5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の実践を始めとして、技術だけでなく基本的な行動にも目を配っています。教育を通じた最終目的は、建設現場のイメージ一新です。施主さまに感動していただけるような活動を目指しています。

理想の家を体感できる バーチャルスタジオ

当社は、施主となるエンドユーザーさまへの情報発信基地としての立場を構築し、エンドユーザーさまと地域工務店さま、建材・住設メー

カーさまを結びつける役割を果たせるよう日々努めてきました。その具体的施策の一環として、ショールーム「おうちスタジオ」を開設しています。

2022年7月にスタジオのリニューアルを行いました。その目玉が、家づくりの理想と現実のズレをなくすための「バーチャルスタジオ」です。家づくりの難点は、図面だけでは自分から建てる家をイメージしづらいところにあります。そこで、最先端の技術で展示場をVRスタジオ化し、実寸大の家を体感してもらう場になりました。

来場された方には、ゴーグルを装着しコントローラーを手にしてスタジオの中を歩いていただきます。ゴーグルを介した視界から部屋の広さや高さを体感できるので、実際に家の中に入るような感覚が得られます。配置された家具や壁のサイズ感はコントローラーの振動でわかる仕組みになっていて、部屋どうしのつながり、空間の奥行き、生活動線を把握できます。

VR映像は設計図面をもとに映し出されませんが、データ上で間取りや家具の配置を変更することができ、その変更内容は瞬時にVRに反映されます。壁の色や床の材質選びはこだわりの家づくりでは重要なポイントとなりますから、色やサイズなどを何度も変えて理想のプランに

近づけることができます。また、日照のシミュレーションもでき、部屋の日当たりを確認するのにも役立ちます。

しかも、シアター型スタジオはご家族4名さままで同時に体感が可能で、情報と感覚を共有しながらご家族で一緒に家づくりが楽しめます。家は大きな買い物ですから、だれでも失敗したくはないものです。バーチャルスタジオを通じてご家族の夢を形にするお手伝いをするのが、私たちの務めであると考えています。



なくてはならない存在となるために

そのほかにも当社では、あらゆる補助金・助成金・申請等のお手伝いなどを行っており、時代にマッチした勉強会の開催を実施しております。私たちのパートナーである地域工務店さま、そしてその向こうにいらっしゃるエンドユーザーさまが心から満足できる住環境づくりに今後も注力し、地域の皆さまおよび社会にとって、なくてはならない存在となれるよう努めてまいります。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦

製材所として事業を開始した後、顧客第一主義を貫き、木材・建材・住設機器メーカーや地域工務店をパートナーとして、九州各地に拠点を設けながら事業領域を拡大し、発展してこられました。

建築資材の供給という役割にとどまらず、加工工場や施工部隊の設置、新工法の開発、3Dバーチャル体験スタジオの開設など、次々に画期的な事業・施策を生み出すその先進性には目を見張るばかりです。これからもチャレンジな活動によって地域の発展に寄与されることを期待しています。

